

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和6年10月11日（金）午後7時00分～午後8時00分
地 区	天野が原地区
場 所	さくら丘自治会館
参加人数	11人

テーマ1 「市道私部西線(くすのき通り)」について

主 旨（区長）

- 1点目について、街路樹は道まで太く、見通しが悪化している。生活道路から大きな通りに出る際の出合い頭が危険だと考えている。歩行者は体、自転車は前輪を乗り出さないと道路を見渡せない。自動車からも歩行者等を確認しづらい。ミラーが設置されている場所もあるが、木が生い茂っており、見渡せない状況である。定期的に剪定していただいているが、まだ生い茂っている。また、季節にもよるが、落ち葉が排水溝につまったり、民家へ舞い散っており、住民が懸念している。
- 2点目について、歩道の幅員はある程度確保されているが、レンガ積みの花壇が幅を取り、通行を妨げている。当初はくすのきと共に景観目的で設置したと思うが、場所を取っている。また街路樹の根が浮き上がり、花壇に亀裂が生じている。車椅子やアシスト三輪車は幅員が狭く通りづらい。
- 以上を安全確保の観点から市で対応いただきたい。

市 長

- 天野が原1丁目と2丁目の住民、とりわけ沿道の住民がどうしたいかによって市は対応する。過去にレンガ積みはされたが、当初くすのきはなかった。しかし、歩道幅員の観点ではありえない樹木が植えられた。当時、河内磐船駅前など様々な箇所にくすのきが植えられた。
- 歩道が狭いことに関しては、歩道は道路構造令上2mだが、レンガ積みにより50cmほど狭くなっており、良くないことだと考えている。
- 一度全て撤去し、くすのきも抜いた方が良く考えている。私は過去に天野が原2丁目と3丁目の間でプラタナスという大きな木を全部抜き、ヤマボウシという木に植え替えた。消防署横の168号線の大きな木も抜いている。電話が多くあったが、私は木に関しては抜く方向で対応している。
- 最近では河内磐船駅前のくすのきを抜いた。大阪府の猛暑対策事業という補助金を用いて、日陰になる屋根を設置し、タイルを直した。また、雑草ばかりの花壇を撤去し、木を1本植えた。ゆうゆうセンターでも京阪の土手側の木を全部抜いて駐車場にする。
- 基本的には皆さんがどうしたいかである。私は、過去から言っているが、くすのき通りに関しては一度レンガと木を撤去し、再度何か植えるか、横断防止柵を設置すべきかどうかなど、様々なご意見があるが十分対応できると考えている。ただし、下水への影響も大きいと考えており、沿道の住民からは下水が詰まっていると苦情も聞いている。その負担等を考えると全て撤去がいいが、一方的に市が行うのではなく、地区として取りまとめていただき、相談しながら改善していきたい。
- 藤が尾や私部5丁目と6丁目では、同じくイチョウが多く、歩道の大きさに木の種類が合っていない。地域の意向を確認次第、市として木の植え替え等の対応が可能だと考えている。

区 長

- 前向きな回答をいただいた。長期的な取組みになることは住民も承知のうえだと思う。住民からは景観保護の意見もあるため、慎重に検討し、行政へ相談したい。

テーマ 2 市の所有物の維持管理について

主 旨（区長）

- 道路や外部区画線の塗装が剥げてきているため塗り替えてほしい。樹木の植え替えや剪定などは、自治会の要望として逐一出すのか、行政で計画的に実施されているのか。警察との合議だとは思いますが、市としての長期的な道路整備についてどう考えているのか。
- 住民と市との情報連携の観点で、市の所有物である道路等の今後の補修等についての意見交換の場は、このタウンミーティング以外にあるのか。

市 長

- 交野市は区長制度があり、府内ではほとんどない。
- 道路を直しても苦情はないが、木を切ると苦情がくる場合もある。様々な意見がある中で、市が地域に出向いて意見を取りまとめるのは困難である。基本的には地区の自治会か区長に意見の取りまとめをお願いし、市に相談いただくのが実情となっている。区長への負担は大きいとは思いますが、他の地域との公平性、公正性の観点からもそのような対応をお願いしたい。
- 天野が原の道路は管理者が複数いる。久御山線と歩道橋、また国道 168 号線は国道だが直轄国道といい街路樹も含めて大阪府が管理している。一方で第二京阪道路の側道は、直轄国道で国が管理している。また停止線や信号は警察の管理となる。くすのき通り等の他の道は、市の管理になるため、その木については地区で意見をまとめていただきたい。くすのき通りの路面改修は定期的に行っており、この 5 年で全部やり替えをしている。他の生活道路は、区長や議員に相談しても変わらない。幹線道路以外を街区道路と言うが、おおよそ 50 年以内に水道・下水管の差し替えが必ずあり、その際に舗装する。普段は、住宅街であるため大型車両はさほど通らないことから道は傷まない。個別に穴をふさいだりするが、舗装を全面的にやり替えることは、余程な場合でないと実施しない。特段傷んだ箇所は区長の相談によって対応は行う。
- 緑道が天野が原にあり、1 丁目の草川沿いに道がある。私が就任後、過去から放置されていた箇所については、令和 4 年度、5 年度に修理は行っている。
- 公園の管理は、細かいところであるため自治会中心、特に天野が原 2 丁目、3 丁目や 4 丁目は地域で管理を依頼しており、地域で管理しきれないところは市に相談があれば個別に対応している。
- 防犯灯に関しては、危機管理室が所管している。中田仁行さんが市長時代に LED 化を行ったところは今でも使えており、切れれば変えている。しかし、今あるものを全て付け替える状況ではないため、様子見の状況である。ただし、防犯灯は 95%程度市で補助金を出しているため、玉切れがあれば危機管理室に連絡してほしい。

区 長

- 班長を通じて情報を吸い上げ、それをまとめて市役所の担当課に依頼する流れだと、本日参集の

方々に理解いただけたと思うため、皆さんには情報をあげていただきたい。

意見

- 交野市中に、外来種のおオキケンケイギクという繁殖力の強い黄色い花が咲いている。天野が原町内は見つけるたびに根っこから抜いているが、関心のない地区等では多く繁殖しており、解決策を考えている。何か方法はないのか。
 - 〈市長〉市では、区長会での呼びかけや広報をすることはできる。市が抜かないと住民が生活できないものかどうかということあるため、あくまで寄せられた情報を周知啓発することになると考えている。
 - 恐らくほとんどの人は、それが外来種で他の生態系に影響を及ぼすことすら知らない。綺麗という理由で川から庭に持ってくる人もおり、その人には説明して撤去もお願いしている。知ってもらうことは重要だと思う。市長が言った形で交野市の自然を守れたらと思う。
 - 〈副市長〉市のHPで周知している。定期的にトップにあがるよう担当課と調整する。

テーマ3 地域(市)及び地区の「防災」について

主旨(区長)

- 防災等の自治会、当地区では連合自治会があるが、交野市の人材役割分担、防災用備品等について、市としてどこまで用意いただけるのか。どの部分を自治会、連合自治会に委ねていただけるのか。
- 地域防災計画改訂版を出されたが、なかなか住民に周知しがたい。それに基づいて、災害時避難所運営マニュアル作成の進捗状況を教えてほしい。当地区では、来月に地区の防災計画を選定し、それに基づくマニュアルを策定する。連携を図っていききたいため、地域防災計画の災害時避難所運営マニュアル作成の進捗状況を教えてほしい。
- 市内各所の防災計画の策定状況について、情報を持っていれば教えてほしい。

市長

- 原則は、自助共助公助であり、必要最低限のものや住居の耐震化等は自身で対応すべきであり、どうしてもそれを対応できていない方は、市も対応すべきであると考えている。そのような役割分担であり、あくまで公助は実際では役に立つところは少ないものだと考えている。
- 交野市の場合、本当の意味で被害が多いのは、水害ではなく地震だと思っている。天野が原では標高が30m程度あり、枚方は5m程度しかなく、大阪市内は0m程度である。交野市で浸水は局地的な災害だと考えている。一方で地震に関して、まず自助では耐震工事、耐震診断を行うこと。全員が実施すると、地震があっても家が絶対潰れないという状況になるわけではないが、市としてはそうした中で指定避難所の対策を進めている。
- このエリアの指定避難所は、第4中学校であり、地域住民全員が避難することはない前提だが、体育館にエアコンを設置しており、今年度には終了する予定。枚方市では都市ガスのエアコンを設置しているが、本市では中圧ガスで設置を行う。中圧ガスであれば、地震が発生しても止まることなく供給が保証されているため、体育館の空調を稼働できる。ただし、避難所となる第4中学校のトイレ改修は、今年度1階から4階まで1箇所改修し、3年間かけて全て大規模改修を終える予定。

- 物資の備蓄は、必要最低限しかなく、原則、国からすれば3日程度の制度である。あまり頼りにせず、災害時の備蓄は個人で一定蓄える必要がある。ただし、能登半島地震のように局地的な地震の場合、緊急消防援助隊や自衛隊の支援があり、食べ物と飲み物にあまり困っていない実態がある。
- 一番困るのはトイレであり、能登半島でも下水が壊れトイレがない課題があった。交野市ではマンホールトイレであったが、マンホールをトイレにするにも下水が壊れていれば意味がない。遅くなかったが、今月中にトラックに5つのトイレがあるトイレトラックを納車予定。車両価格2,600万円のうち、補助金、寄付金を活用し、市として負担なしに購入ができた。併せて車型のトイレカーについては納車待ちの状況である。また、携帯式トイレ等についても、市として調達を進めている。電気の復旧は早く、おおよそ1週間程度で復旧されており、慌てる必要はないと考えている。
- 地域の防災計画は、天野が原では一定取り組まれていると理解しているが、地区によっては進んでいない状況である。交野市において、ようやく各地区で防災訓練や安否確認が行われるようになったところであり、防災計画策定までには至っていない。計画策定も共助公助として大事だが、一人一人の心がけが本当の意味での災害対策になると思っている。交野市としてもこの地域においては第4中学校を中心に、より安全で安心な地域にするよう取り組みたいと考えている。

区 長

- Wi-Fi 環境について、今後、地域施設補助金にて付与してもらえらる方針があればありがたい。
- 本館、消防署は大規模災害に耐えられるのか懸念している。

市 長

- 交野市内の小・中学生にタブレットを配布しているが、意図的にWi-Fiをつけず、今後も予定はない。LET回線はどこでも使用でき、今後さらに通信速度、容量は上がるため、LETの方が利便性も高く、市としてWi-Fi整備はあまりしない方向で進めている。
- 地域では費用負担は難しく、市で負担してもWi-Fiは災害時だけでなく、地域での普段の活動にも使用できてしまう。そのため市がどこまで負担してよいか曖昧であり、難しいと考えている。
- 大規模災害でのWi-Fi整備という点では、能登半島地震でも大手通信会社がモバイルWi-Fiを被災地等に持ち込んでおり、市や自治会がといったレベルではなく、大手通信会社によって整備されていた。現状、各地区にてWi-Fi整備の緊急性はない。それよりも各地区の自治会館の耐震対策を先にすべきだと考えている。予算のある地区では、すでに改修が終わり、建て替えの話もしている。そうでない地区は、耐震性がなく傷んでいるが耐震工事費用がない地区もある。市として対応に苦慮している。緊急防災減災事業債を活用して避難所をつくると7割は国負担になるが、それを1つの地区で実施すると残りの地区と不公平になるため、踏み出せない。今後の自治会館の維持管理や改修について検討しており、老朽化が進んでいる消防団車庫を優先的に建替えに向け進めている。
- 公共施設について、市役所別館は過去に耐震工事を実施済みであるが、本館は耐震性なしと判定されている。移転の話もあったが総額100億円発生するため、電話世論調査の結果、6割が現庁舎で耐震工事実施、1割が現庁舎で耐震工事なし、と移転しないが3分の2以上を占めた。そのため市役所は移転しない。現在、耐震工事の設計中で、来年度から工事着手予定である。他にも耐震性がない建物があり、青年の家の体育館も耐震性がなく、代わりに施設整備が終われば取り壊す予定。

- 消防署の耐震性はあるが、消防職員が現在 78 名に対し、過去の交野市の人口が多くない消防職員 40 名程度の時の建物をそのまま使用している。また消防署 1 階、天野が原町 4 丁目からは地下に見える部分は、洪水の浸水区域のため、移転する場合は国が 7 割負担することが判明した。乙辺浄化センター付近への移転、建替えを検討している。周辺の道路整備、補助金の延長が明確でないため、様子を見ている。移転となれば、4 丁目自治会に改めて相談したい。過去、移転や残る話もあったことから、耐震工事をされた経緯があると思っている。一時は 4 丁目の会館を移転し、そこに消防署を移転する話もあった。現在は、市として消防署はおおよそ 5 年のスパンで移転を考えており、残った建物は地域の意見を聞き活用を決定したい。
- 天野が原にはゆうゆうセンターもあるが、耐震性は十分ある。しかし、フロアの一部がエアコン未設置である、また福祉避難所であるため、避難所としてエアコンを設置したことで国から 7 割の補助を受けて追加のエアコン設置、災害用に井戸の機能強化を含めて検討している。

区 長

- 第 4 中学校も標高が低いので、天の川からの浸水被害も考慮して磐船小学校との連携も考えていく必要はあると思う。地震だけでなく水害についても被害が想定されるため、連携を図っていきたい。
- 〈市長〉水害に関して、天の川が氾濫する可能性が高いのは、宮之阪から枚方市駅周辺である。天野が原で標高 30m 程度、郡津駅で 20m 程度、一方で枚方市駅周辺は 5m 程度。また枚方は淀川が流れており、合流時に淀川の水位が上昇すると、天の川の水が淀川に入らず逆流する。交野市では傾斜で流れる水も、枚方市では溢れるため、100 年に 1 度の規模の雨が降った場合、浸水する可能性がある。交野市で溢れることはあまりないが、天の川に流れるまでに川が溢れる、内水氾濫が起きて天野が原 1 丁目や 5 丁目などで浸水する可能性はある。家は高めに建てており中まで浸水はしないが、車が壊れる。その対策を下流から行う必要があり、中心を流れる草川が第二京阪国道の下側を通り、私部西に行き、前川と合流する。ようやく大阪府が前川の工事が終了したため、市として草川の第二京阪国道をくぐった場所を緊急自然災害対策事業債にて国の 7 割負担で購入し、そこを中心に 5 年スパンで第二京阪国道から下流部分で川の掘り下げ工事を実施予定。それが終了し、天野が原の中での草川の浸水対策になるが、二国よりも下流部分は浸水対策工事を終える目処は付いており、浸水に関しては改善される。本来なら一度に実施できれば良いが、下流部分からしかできないこと、また地権者から売却の意向があったため、国の補助金を活用し今年度予算で購入できる目処が付いている。今後、5 年程度かかるが、浸水対策工事を進めていく予定である。
- 市長から自助が基本だと強調されたが、同感である。天野が原の地域全体的に、「水害や地震があっても生活に苦慮することはないだろう」と防災に対する意識が弱いのではという感想を持つ中、どうすれば意識向上が図れるか模索している。当地区では、自主防災会、まちづくり委員会でそれぞれの顔が見える関係性で、お互い頑張り助け合い共助に繋がると考えている。しかし、一人一人がもう一步、いい意味での緊張感を持ち知識を学び、身の回りのことを準備する必要があると改めて感じた。

意見

- 市役所や消防署は大きな災害があった場合に本部が置かれると思う。そうすると、市役所までの道路はそのままいいのか心配している。狭い道路では、地震で建物が壊れた時に辿り着けなくなるのではないかと。
- 〈市長〉災害対策本部は、必ず市役所に置くことは想定していない。交野市はいきいきランドやゆうゆうセンターを含めた分散型庁舎であり、他の場所を使う想定はしている。なお、市役所は耐震工事を実施予定だが、併せて周辺道路の拡幅等も進めている。交野市では、全てを満たす庁舎は現状ない。市長就任後、ゆうゆうセンターに本庁機能の移転も想定したが、北田市長時代に建設条件として、福祉や子育て分野での使用目的で市街化調整区域に建てており、移転は不可能であった。現在の財政状況で他の場所に市役所機能を設置することは困難である。
- 周辺の施設にもそれなりのものが準備されていると理解した。
- 自主防災担当だが、自助共助公助はそのとおりで考えている。我々も住民に自助 7 割、共助 2 割、残りが公助だと説明している。実際に広域災害が起きた場合、自助は実施しているが、結局避難となれば、場所は第 4 中学校になる。ここには私市の方も来ることを想定すると約 5,000 人、約 2,000 世帯が対象になる。第 4 中学校の収容人数は、最大 150 人で 50 世帯程度であると思う。一時的な避難ではあるが、避難者が増え収容できない場合、ゆうゆうセンターやスーパー等の他の場所を一時的な避難場所として活用できるのか心配している。そういった場合に指示があるのか。
- 〈市長〉第 4 中学校が溢れるほどの災害の場合、他の避難所も同じく溢れる。行政として対応は困難。そのようなケースは、ほとんどないと考えている。南海トラフ巨大地震の場合、交野市の想定震度は 5 強から 6 弱。ただし、能登半島地震のような交野断層での直下型地震が起き震度 7 にもなると、壊滅的な被害が起きる。その結果、避難所の収容人数がオーバーする可能性はあるが、交野断層が動く確率は数千年に 1 回であり、行政として想定が困難である。市として、起きうる災害は、南海トラフ巨大地震だと考えており、今後 20~30 年の間に 70~80% の確率で起きることから、それを想定した災害対策をすることになる。その場合、私市の一部の方が避難されても第 4 中学校で十分収容可能だと思っている。天野が原の安全面に関してでは、浸水は自宅の車が壊れる程度だが、注意が必要なのは地震であり地盤は強くない。家を建てる際の地盤調査で引っかかる家が天野が原には多い。元々、天野が原町 1 丁目、2 丁目と 5 丁目は、昔の私市村でいえば河辺という言い方をしており、雨が降れば浸水するエリアである。本来の地盤は、天野が原町 1 丁目の会館の隣にある凹んだ農地の位置が元々の高さである。多くの土砂を盛って今の地盤の高さになっており、決して地盤が強い訳ではない。特に建替えていないや耐震性がない場合は、それなりの被害が出ると考えている。市としては、自助をお願いするが、全ての人ができるわけではないため、その部分は共助や公助で皆さんを支えていきたいと考えている。

区長

- 昨年度、京阪バスの路線廃止に伴い直 Q バスを提案いただき、要望に対してすぐに動いていただいたこと。今回もまた同じような問題が起きたが、継続的に維持してもらえることは非常にありがたい。フレンドタウンの停留所への頻度などについて、地域も高齢化が進んでおり足の確保ということでも期待したい。